

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和2年度第2回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和3年3月3日(水) 午後1時30分から午後3時20分まで
- 3 開催場所 水戸市役所中会議室1・2
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 笹瀬 佐代子, 谷萩 美智子, 大竹 隆志,
鹿倉 よし江, 浅川 宗典, 羽石 英司, 大谷 一宏
- (2) 執行機関 【市民生活課】課長 小川 邦明
副参事兼課長補佐 入野 高司
協働係長 橋本 隆志, 主事 尾崎 志野
【介護保険課】課長 荻沼 学
【障害福祉課】子ども発達支援センター所長 太田 礼子
【総合教育研究所】副参事兼支援相談係長 玉井 康浩
【農政課】企画係長 長谷川 修
ふるさと農業センター所長 長谷川 祐紀
【ごみ減量課】副参事兼課長補佐 会沢 知洋
【泉町周辺地区開発事務所】主幹 吉元 一真
【公園緑地課】千波湖管理室長 鶴井 昭宏
- (3) その他 特定非営利活動法人ちいきの学校
じゃあまいいかねっと-市民活動ネットワーク-
森っこ
株式会社ナムチェバザール
常磐大学地域連携センター
特定非営利活動法人セカンドリーグ茨城
特定非営利活動法人Happyリレーいろいろ
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」に係る
令和3年度提案事業の公開プレゼンテーション(非公開)
全体審議(非公開)

6 非公開の理由 (水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」

令和3年度提案事業公開プレゼンテーション)

- ① 新型コロナウイルス感染症まん延防止のため。

(全体審議)

- ① 公にすることにより，当該団体の権利，競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるため。
② 公にすることにより，率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあるため。

7 会議資料の名称 令和3年度提案事業の概要

8 発言の内容

【公開プレゼンテーション】

委員長	ただいまから，令和3年度水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」のプレゼンテーションを始める。提案のあった7事業について，提案団体と市担当課から，事業の概要，協働による効果，役割などについて発表していただく。なお，審査を行っていく上で，委員の中で，提案のあった団体に所属する，または，密接な関係にある場合には，その提案事業の審査から外れるものとする。
提案団体 介護保険課	〔発表：介護助手養成 ちいすけ水戸〕
委員	事業の名称がとても素晴らしい。他県ではどのような成功事例があるのか。また，茨城県内において，水戸市以外でも取組をしているのかお伺いしたい。
介護保険課	三重県で先進事例があることから，その事例を活用しつつ今回の事業を進めている。また，茨城県内では，県の事業として実施しており，事業は民間業者に委託し，アクティブシニアのかたを時給1,000円で募集する内容である。就職はなかなか難しいと聞いている。
委員	PRと告知についてはどのように考えているか。
提案団体	市報に折り込みチラシを入れる，特集記事を掲載することをメインに考えている。
委員	介護は食事，排せつ，入浴補助など専門的な資格がないとできない部分も多いと思う。今回9名のかたが介護助手として就職されているが，どの

	<p>ような周辺業務を担っているのか詳しくお伺いしたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>まず各事業所に、どのような人材を希望するか、どのような役割を担ってくれる人が欲しいのかをお聞きしている。例えば、配膳業務を手伝ってくれる人が欲しいという事業所があった場合、その業務ならできるという介護助手のほうと事業所をマッチングさせている。あくまで、周辺業務である。今回、1回目の事業を実施しておもしろかったことは、シニアのかたがそれぞれ持っている個性、今まで培ってきた技術を活かせるような支援ができることである。例えば、ピアノができることを面談などで聞き取り、お一人はレクレーシヨンの先生として活躍されている事例もある。</p>
<p>委員</p>	<p>ちいすけ水戸の受講者は60代が多いようであるが、介護助手として就労された9名の年代をお伺いしたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>60代のかたが多い。働きたいかたは年代を問わず、60代、70代のかたがたがいる。</p>
<p>委員</p>	<p>令和2年度に1回目の事業を実施し、9名の従事者がでたことはすばらしい。やはり、市民の関心の度合いも大きいと思う。研修の内容は、実技については特別触れられていないが、研修の中で先輩の話聞く、施設の見学をただけのようであるが、実際現場で活動した際に困難なことがなかったのかお伺いしたい。また、提案団体のほうでマッチングによる就職のあっ旋業務をした場合、事業所と介護助手との間に金銭問題も発生すると思うが、それに対する関わりをお伺いしたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>1つ目の質問について、現場での不安ということにとらえてよろしいか。もちろん9名のかたがたそれぞれおありだと思いが、受入れ事業所に対しては、社会貢献を目的としてこの事業がスタートしていることを説明しており、研修を受けたからすぐに補助業務をやってくださいといったことではなく、現場でもコミュニケーションを取りながら業務ができる仕組みがこの事業には含まれているといったことを御理解いただけるとありがたい。</p>
<p>提案団体 ごみ減量課</p>	<p>〔発表：TOKIWAフードロス削減大作戦〕</p>
<p>委員</p>	<p>まず1つ目に、事業を始めようと思ったきっかけをお伺いしたい。2つ目に、フードバンク茨城という団体があるが、その団体との連携はしているのかお伺いしたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>まず1つ目の質問についてだが、常磐でSDGsというキャッチコピーのもと、学長が主導し全学的にSDGsに取り組んでいる。その目標はいくつかあるがその中でも、飢餓がない世界という目標に着想を得て、今回は専門教員もアドバイザーとして加わり事業を実施することとした。 次に、2つ目の質問についてだが、まだフードバンク茨城との連携はしていない。今後の展開に関しては、このプロジェクトが初めの一步であるため、まずはできるところから実施することを考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>まず1つ目に、この事業の着地点が見えるようになるといいと思う。2つ目に、収支計画でポストイニング費用に100千円を計上しているが、自治</p>

<p>委員</p>	<p>会などを利用して配布することで経費を削減できるのではないかと思います。また、広報に関しても学祭やオープンキャンパスを利用して配布するのも広報手段の一つだと考える。</p> <p>提案のあった事業は啓発キャンペーンだと思うが、実施するにあたって、水戸市としっかり連携しながら事業を進めることをお願いしたい。さきほど他の委員からも指摘があったように、市報を利用することにより、さほど経費をかけずにできることがあると思う。広報手段として、サクラサクライフを提案していたが、例えば茨城新聞とコラボレーションをして連載を設けるというやり方もあるのではないかと。また、提案にあったように啓発対象を一般市民にするというやり方もあるが、フードロスの現状をまだまだ知らない学生も多くいると思うことから、学生を対象とするやり方もあるのではないかと。また、広報に関して、市報への掲載について検討されたのか。検討した結果、市報を使用しないと決めたのであればその理由をお伺いしたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>現在、町内会に加入する世帯が減っているため、市報は全世帯に届くものではない。そのため、あえて広報手段から市報を外した。サクラサクライフを選んだ理由は、ファミリー層、地区ごとに配布ができることから、むやみに配布するのではなく、ファミリー層が多く住む地区に限定して配布することが可能であるため。また、茨城新聞等メディアでの連載について、我々の活動のサポーターになっていただくことができれば、可能になると思うが、現時点では実績がないため、依頼した場合に経費が発生してしまうのではないかと。委員の皆様から御指摘いただいたとおり、経費削減に取り組みながら、まずは我々の活動のサポーターになっていただくことを目標に頑張りたい。</p>
<p>提案団体 農政課</p>	<p>【発表：親子で楽しむ森あそび 森っこ】</p>
<p>委員</p>	<p>この3年間いつも楽しい企画に溢れており、聞いているだけでも楽しいなと思っていた。また、今回は活動中の様子を撮影し、写真販売をするアイデアを取り入れ、今後の活動を自立させていくための収入源を確保するなど常にアイデアをもって事業を進めていることも素晴らしく、今回のプレゼンテーションを頼もしく聞かせていただいた。今後も頑張っていたきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>5名で事業を実施しているとのことであったがどのように運営しているのか伺いたい。また、これだけ多くのお子さんが集まった時の安全面における対応についてもお伺いしたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>メインスタッフ3名、その他にお手伝いママスタッフがいるため、最低5名で運営している。また、安全面については、毎年必ず安全講習を受けている。自然の中での活動のため、安全については心がけて活動をしている。</p>
<p>委員</p>	<p>参加しているお子さんの数に対してスタッフの数が少ないように感じられ、安全面について少し心配である。今後スタッフを増やすなどの対応は考えているか。</p>

提案団体	常にお子さんの横にはお母さんがいる。それに加えて、最低5名のスタッフが全体の見守りを実施している。子どもを周りの大人がみんなで見守る活動を今後も進めていきたい。
委員	令和2年度は、スタッフにシニアのかたが、男女1名ずつ入られた。これから高齢者が増えていくと思うが、特技やいろいろなことを教えられるシニアのかたがたくさんいると思うので、そういったかたがたにもPRをしながら、仲間に加わってもらえるといいと思う。今回、2名のシニアスタッフが入れられたきっかけがあればお伺いしたい。
提案団体	私たちは森林活動のボランティアもしており、そこで出会ったインストラクターのかたにお声がけし、参加いただくこととなった。
提案団体 農政課	〔発表：キッズトレイルランニング大会〕
委員	<p>4年ほど前に森林公園でトレイルランニング大会の企画・実施をしたことがある。その際に、冷蔵庫やタイヤなど非常にごみが多かったため、トレイルランニング大会をやる前に軽トラック4台分ほどのごみを処分した記憶がある。ごみの問題についてお伺いしたい。</p> <p>また、収支計画書に記載されている収入の大会参加費の算出根拠についてお伺いしたい。</p>
農政課	<p>ごみの問題についてだが、委員のおっしゃる通り家庭用ごみや家電などの不法投棄がされている状況である。やはり、森林環境の大切さをまだ皆様に御理解いただけていないことが要因の一つであると考えられる。そのような状況も踏まえ、森林は大事であるといった森林教育を兼ねるために、今回この事業を計画することとした。ごみの対処については、市民のかたに呼びかけをして、年に1回クリーン作戦という大規模な清掃活動を実施している。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス禍のためトレイルランニング大会は実施できなかったが、クリーン作戦のみ実施したため、ごみはだいぶ回収できたと思う。ただし、現在も不法投棄はされているため、今年度もトレイルランニング大会前に、クリーン作戦を実施したいと考える。</p> <p>収支計画についてだが、収入については参加者1人あたり1,000円、200名の参加を見込んで算出した。昨年度のプレゼンテーションで提案させていただいた際に、委員の皆様から企業から協賛を受けて実施したらどうかという御提案をいただき、開催にあたり検討をしたが新型コロナウイルス禍のため開催できなかった。企業からの協賛については、令和3年度も検討する。</p>
委員	トレイルランニング大会参加者へのサービス向上のため、少年自然の家と連携して、参加者が前泊できる仕組みやトレイルランニング大会後にシャワーを使用できるなどの配慮も必要だと思う。
委員	収支計画書で備品、消耗品費の割合が高く計上されているが、具体的な内訳をお伺いしたい。
農政課	正直なところ、参加者が読めない部分もあるため備品、消耗品の割合を高めにしていく。そのほかに会場づくりのためのごみの片付けなどに、費

<p>提案団体 障害福祉課 総合教育研究所</p>	<p>用が加算されることを見込んでいます。 また、少年自然の家や旧山根小学校と連携をして地域を盛り上げていきたい。</p> <p>〔発表：LD，HSCの子どもが育つ環境を整える事業〕</p>
<p>委員</p>	<p>事業内容は、行政でも手が届かないような研修内容で、非常に意義のある活動だと思っているが、収支計画書の内容についてお伺いしたい。まず、収支計画書に記載されている参加費の算出根拠について。次に、人件費と諸謝金の割合が非常に高いが、その内訳についてお伺いしたい。</p>
<p>提案団体</p>	<p>英語講座参加費について、現時点では正確な金額は決めていない。ただ、子どもたちが参加するため、1回あたり1,000円もしくは多くても2,000円程度になる見込みである。ただ、教員対象の研修については、研修の一環として実施するため参加費などは設けていない。また、講演会の参加費については、令和2年度実施したHSCの講演会は全て無料で実施した。令和3年度については、未定である。無料で実施したほうが、より多くのかたに参加していただけると考えるが、参加者に負担をいただくとしても、500円～1,000円程度になる見込みである。</p> <p>人件費について、仕事等合間を縫って活動している状況である。この補助金の制度は団体メンバーが活動に必要な交通費の支出が難しいため、持ち出しがある状況である。団体にとって負担が大きい、公共性の高い事業であることから、参加費等で収益を得ることが難しい状況である。さらに、労力がかかり専門性が高い事業であるため、無償のボランティアでできる限度を超えている部分がある。ただ、この事業は本当に今の子どもたちが育つ環境や教育にとって必要な活動であると認識している。そのため、この活動を継続していくために、寄付やクラウドファンディング等で資金を集めて、来年度も活動を継続できる体制を作っていくための計画を立てた。</p>
<p>委員</p>	<p>人件費は、会の構成員の報償として計上しているのか。</p>
<p>提案団体</p>	<p>構成員の分もあるが、お手伝いをいただいているかたにも支出できれば、協力いただけるかたが増えるのではないかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>説明を聞いて、非常に苦しいということが伝わった。専門性の高い研修を重ねていることから、持ち出ししながら事業を継続していくことは本当に厳しいと思う。この補助金は、資金の使い方に制限があるため、今後、行政には、この活動をよりバックアップができるような方法を探っていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>研修は教員を対象としているが、どういった教員が対象となるのか伺いたい。</p>
<p>総合教育研究所</p>	<p>基本的には、特別支援を担当している先生がた、教員以外でも特別支援の支援員にも希望制で参加していただくことを想定している。</p>
<p>委員</p>	<p>希望制とのことであるが、出席率はどの程度なのか伺いたい。</p>

総合教育研究所	令和2年度は総合教育研修所のホールで実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、参加人数は50名に制限したところ、おおよそ定員の50名から御参加いただき開催をした。
提案団体 泉町周辺地区開発事務所	〔発表：市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業〕
委員	収支計画書の諸謝金に記載されているが、そのアドバイザーから実際どのようなアドバイスがあったのか教えてもらいたい。
提案団体	道あそびを実施することで、ただ遊ぶだけではなく、その空間の可能性をいろいろとイメージしていただく働きかけをしていきたい。全国的な道あそびのアドバイス、サポートをしている団体のかたにお力添えをいただき、今までの道路で見たことのない景色を作ってみたいと思っている。市民の皆様が、日ごろ思っている道路、歩道のイメージを越えて、もしかしたらこのようなことができるかもしれないというイメージを膨らませていただきながら、楽しい1日を市民の皆様と過ごしていきたい。このような観点からのアドバイスを求め、また、スタッフや市民のかたの中で関心のあるかたと道あそびの機会を通じて対話をしていただきたいと考えている。
委員	今考えている道はどのあたりを想定しているのかお伺いしたい。
泉町周辺地区開発事務所	我々が想定している道としては、令和2年度に実施したアンケートでも意見が多く集まった場所でもある、幹線市道4号線（新市民会館建設予定地と水戸芸術館の間に挟まれている道路）である。使い方としては、車両を通行止めにして、歩行者が自由に歩けるような場所で道あそびを実施することを想定している。
委員	令和2年度に実施したアンケートは、グーグルフォームで意見を求めたとのことであったが、回答者の年齢層をお伺いしたい。
泉町周辺地区開発事務所	1番多かったのは、41才から50才で全体の35%であった。次に多かったのが、31才から40才で全体の24%であった。この2つの年齢層で全体の約6割を占めており、実際に町に出ているかたの声が集められたと思っている。
委員	道あそびはいいと思う。東京の高円寺で実施している道路を使ったイベントでは食×ライブ×コミュニティーの3つのワードでさまざまな団体が連携して、まちづくりができるのではないかなと思う。 今道あそびを想定している道路は、大型ダンプカーなどの通行が増えていたため、道がだいぶ傷んでいるように思う。提案として、宮下銀座の道路を道あそびの場として使用するのもいいのではないかなと思う。今後、道あそびが、いろいろな地区で実施されるとおもしろいのではないかなと思う。
提案団体	私たちが、この道あそびを実施することによって、参加者自身が自分たちの身近な道路で道あそびを実施してもらえるようになればいいと思う。
提案団体	〔発表：公園にハートいっぱい種を蒔こう〕

公園緑地課	
委員	<p>私が幼いころは近くに公園があり、紙芝居のおじさんが来ていた。そこには、子どもたちが何十人と集まり、地域の場づくりができていたことを思い出した。このプレゼンテーションを聞いて、団体のかたがまさに、現代版の紙芝居のおじさんのようになって、子どもたちも見守りをしていることに感心した。実際に、ケガ、事故防止につながったことは過去に何件あったか伺いたい。</p>
提案団体	<p>消防に問い合わせをしたところ、昨年千波湖周辺で救急車の出動は13件あった。熱中症が多かったと聞いている。うち、私たちが活動の拠点としている少年の森は2件であった。熱中症については、氷の提供をすることにより防げたと思っている。少年の森で2件の救急要請は、公園内で転倒し、出血が止まらなかったため、いずれも私自身が救急要請をおこなった。</p>
委員	<p>発達障害コミュニケーション指導者、日本スポーツ指導者、食育インストラクター、介護士など、さまざまな資格をお持ちになって、公園のサポーターとして素晴らしい活動をされている。さらに、フードバンク活動もされているため、この活動についても伺いたい。</p>
提案団体	<p>私たちは農家へ寄付を募りに行くことや、子ども食堂同士のネットワークも強い。そこから、寄付をいただいたり、私たちから寄付をしたりしている。もう1つの特徴は、料理の好きな子育てママがいるため、もらった食材をできるだけ手を加えてお届けしている。それを「アートHOTイート」と表現している。</p>
委員	<p>ごみ拾いなどの清掃活動なども実施しているようだが、年に何回程度実施しているのか伺いたい。</p>
提案団体	<p>1年365日実施している。学校やボランティアをやりたいかたからのお声をいただいたときには、団体のメンバーとボランティアをやりたいかたと一緒にさまざまな場所の清掃活動をしている。</p>
委員	<p>フードバンクについて、私自身この新型コロナウイルス禍になってから支援をしたいと思ったが、生もの、古米は困ると言われたことがあり困惑した。また、賞味期限についても厳しいことを言われ、支援を気軽にできないと実感していたが、この件についての団体の意見を伺いたい。</p>
提案団体	<p>多くのかたが敏感になっていると思う。ただ、勉学では賞味期限は過ぎても問題ないなど、さまざまな考え方がある。環境の観点からも、食べ物を大事にしようという考え方もある。私はその中で、大事なことは日頃の暮らしの中でのもったいないという感覚だと考える。賞味期限で判断はしていない。たとえ、賞味期限が切れていても、もったいないと感じるかたにお渡ししている。そのため、私たちはもらいに伺う時も人の良さで伺い、人の良さをいただき、人の良さをお配りしている。そこに、賞味期限は書いてあるのみであり、もらうかたの自己判断を望んでいる。</p> <p>地元のケーキ屋から割れた卵をいただくことがある。私自身に、もったいないという想いがあるため、食べてみないをわからないと考える。</p>